

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	小城市立三日月中学校
1 前年度 評価結果の概要	生徒アンケートで、「先生は、わかりやすい授業になるように、いろいろな工夫をしている」と88.7%が答えた。要因として「かけはしノート」の有効活用や授業改善、生徒の主体的な活動を設定することや特別支援教育に対する教職員の意識改革などが肯定的な受け止めにつながったと思われる。引き続き取り組むべき課題として、不登校対策、さらに特別支援教育を視点においた個別最適な学びと協働的な学びについて、研究の充実を図る。学習支援の充実、居場所づくり、ICTの活用などを学校全体として、引き続き前向きに改善を進めていきたい。
2 学校教育目標	志をもち、主体的に挑戦し、未来を切り拓く生徒の育成 ～夢・挑戦・協働三中～
3 本年度の重点目標	・情報交換を密にし、明るく前向きに取り組む職員集団の形成 ・特別支援教育の基本的な考え方を踏まえた授業づくり・生徒理解（校内研究との連動） ・ICT利活用の推進

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1) 共通評価項目			
評価項目	重点取組	成果指標（数値目標）	具体的取組
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践「かけはしノート」の活用を通して、家庭学習時間の確保と学習内容の定着を目指す。 ○「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する授業実践（校内研究との連動）	○「かけはしノート」は、その日の授業内容の復習と理解を深めることに役立っていると回答する生徒が80%を超える。 ○「先生は、分かりやすい授業になるようにいろいろな工夫をしている」と回答する生徒が90%を上回る。	・生徒一人ひとりの実情に応じた活用の仕方や工夫を通して、授業で学んだことと家庭での学習のつながりを深め定着をはかる。 ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の場を設定した授業実践をするとともに、授業を年1回以上公開して効果を共有する。
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳の時間は、自己の成長に役立つと思う生徒の割合を80%以上とする。	・学年職員全員で道徳の授業を行い、道徳教育の充実に取り組む。 ・生徒の「出番」「役割」「承認」を大切にしたい実行委員会形式による学校行事の実践や生徒会活動の充実を図る。
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○学校が楽しいと回答する生徒が80%を上回る。	・毎月いじめアンケートを実施し、いじめの早期発見、早期対応に努める。 ・ネットいじめ防止及び情報モラル教育に関する研修会（講演会）を2回以上行う。 ・個に応じた支援を充実させるため、特別支援教育に関する講習、講話を通して、知識を高め、実践する。
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動（リフレットを活用した発達支持的生徒指導の共通実践）	●「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒80%以上	・日頃の教育活動全般を通じて、「ほめるからはじめる。はじまる。」を合い言葉に生徒の自己肯定感を高めるような声かけを行うと共に学級活動で互いを認める取り組みを行う。 ・生徒の自己の成長や将来の夢につなげるため、輪番で教職員が「心の講話」を行う。
	○無言清掃や学校の環境整美の取り組みにより、心の成長につなげる。	○無言清掃に取り組むことで、心の成長につながっていると回答する生徒が80%を上回る。	・無言清掃への意義を高めるために生徒集会や職員研修で伝えると共に、学年を縦割りにした合同清掃会を行う。
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●生徒指導部で毎月出される成長目標の達成が80%以上 ●「健康に良い食事をしている」生徒80%以上	・生活部とタイアップして生活習慣のアンケートや自己評価をし、PDCAサイクルができるようにする。 ・食育の大切さについて考える授業を実施し、各種通信にて家庭との情報共有を行う。
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・部活動時間、休養日の厳守。 ・学校全体で退勤時間を早める取り組みの実践（呼びかけ→振り返り→改善） ・1日単位での年休取得呼びかけ。 ・長期休業中の計画的な年休取得呼びかけ。
●特別支援教育の充実	○特別支援教育の基本的な考え方をふまえた授業実践（校内研究との連動）	○特別支援教育の基本的な考え方や知識を活用し、「授業を行うことができた」「深まった」と回答する教員が80%を上回る。	・授業発表会など各教科の授業を公開し、参観者からの意見をを通して、自分の授業の成果と課題を確認する。

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目			
評価項目	重点取組内容	成果指標（数値目標）	具体的取組
○ICT利活用の推進	○タブレットを有効に活用できる生徒の育成・教育活動の充実 ○教員の活用スキル向上	○ICT機器を「有効に活用できた」「活用できた」と回答する生徒の割合が80%を超える。 ○ICT機器を「授業で活用できている」と回答する教職員の割合を80%以上にする。 ○教職員の働き方改革を進める。	・利用の仕方や保管方法などを見直し、必要に応じてすぐに活用できる環境をつくる。 ・職員向けの研修会を開き、有効な活用方法を教科別に共有する。 ・校務支援システムやチャット機能などを活用した情報共有・会議資料のペーパーレス化などを進める。

5 総合評価・次年度への展望	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習への取り組み方を再考する必要がある。（課題の出し方、習慣づけ等） ・ICTの活用が昨年度と比較して大幅に向上した。今後も業務のスリム化及び効果的な授業展開にICTを活用していきたい。 ・業務改善・働き方改革に関して来年度さらに一歩踏み込んだ対策が必要である。
-----------------------	---